

## 経営者『環境力』大賞

庄司 元（しょうじ はじめ／環境文明 21 会員）

本賞も 12 回目、十二支で言えば丁度一巡。スタートした 2008 年に生まれた赤ちゃんが小学校 6 年生、早生まれなら中学生になる。一時代前は、生まれた子供たちに戦争のない平和な世の中をつくるのが、悲惨な戦争体験を経た日本人にとっては一つの大きな願だった。現行憲法はそのことの象徴でもある。だが今は、平和はもちろんだが、それ以上に安心・安全に暮らせる地球環境を維持すること、否、これ以上の地球温暖化を食い止めることが、国境を越えた大人たちの大きな課題となっている。

この課題に対する大人たちの対応にしびれを切らした若い力が現れてきたが、そのしびれを切らせた大人たちの責任をいち早く捉え、地球環境を取り戻す「環境文明社会」の構築を掲げて立ち上がったのが、我が「環境文明 21」だった。

どんな文明社会であれ、その社会を動かす要はその経済活動にある。環境文明社会でも然り。だからその経済活動の舵を取る企業経営者には、環境力すなわち温暖化を食い止め、地球環境の保全、社会の持続的発展を念頭に置く企業活動の経営戦略の有無が問われる。企業経営者は環境文明社会構築の鍵を握っていることになる。ここに着目して、環境力ある企業経営者に求められるものはどういうものか…と検討するプロジェクトが環境文明 21 内に立ち上げられ（2006 年）、約 2 年の歳月をかけ纏まったのがこの大賞が掲げる「未来をリードする経営者の資質 12 項目」である。

当初この「12 の資質」は、現役の経営者に企業経営における環境力の大切さを認識してもらうために、この「資質」について自己

評価することを呼びかけるだけのものだったが、これに予想を上回る反響があったことから、自己評価だけにとどめずその結果を顕彰して広く社会にその存在を発信し、環境力ある経営の有効性を世に広く知ってもらうことが必要ではないかとの考えに至り、生まれたのがこの「賞」である。

「環境」をテーマにした企業・経営者に対する「賞」は種々あるが、この「経営者『環境力』大賞」は、他者からの評価を基礎にしていけないこと、ご自身の評価（自己評価）を出発点にしていることにその特徴がある。一つ間違えば、単なる自慢大会になってしまうが、そうならないためにこの「賞」の選定課程では、各応募者からその自己評価点と同時にその根拠となる評価理由書を提出していただき、それを企業の環境報告書などの諸データと合わせ、その自己評価点が十分裏付けられているかどうかを確認している。さらに個別の面談も行っている。

応募者はもちろん受賞者も含めて、この自己評価は難しかったとの感想をよく聞く。これは選定する（この用語を使うおこがましさをご容赦ください。）側にも共通することだが、環境力を数値化することの難しさ…と言うよりその評価の視点——取っ掛かりの見つけにくさにその理由があるように思う。福祉分野あるいは事業の国際化が進む中で企業経営者からの応募があった際に、こうした事業における環境力をどのような観点から捉えるかについて大いに議論になったが、環境文明 21 としてもまだ十分に整理されていないこれからの課題でもあろう。

12 頁に掲げた表は、過去 12 回の項目別、年度別の自己評価点の平均点一覧である。（紙

誌面の関係上一部年度省略) 各年の項目ごとの点数は、その年の各受賞者が付けた自己評価点の平均点を示している。全12回・全12項目を通しての1項目当たりの自己評価点の平均は4.4点で100点満点なら88点。先に述べたように、この自己評価点は様々な資料で裏付けられているのだから、顕彰に値する点数であることに相応しいと自信を持って言えるし、何よりもそのことは顕彰された方々を見ていただければ納得いただけるだろう。

全12回・全12項目を通して最高平均点は4と7の項目の4.55。「昨今の厳しい経営環境中で、環境のことなど…」の風潮がまだもって少なからずある中で、受賞者はこの項目に自信を持って企業経営に取り組み、かつ、それで経営業績を立派に上げていることを自ずから示していることになる。

逆に最低は4.10の項目9。評価点が低いのは評価者の科学への理解力が足りず、「経営に活かす力」については自信が持てないということだろうか。最近の科学技術の進歩は著しくかつ早い。しかし、AI技術の目を奪う進歩、遺伝子の組み換え、クローン人間の誕生…など人間の存在、人間の尊厳を脅かしかねない科学の進歩がある。チャップリンの“モダンタイムス”は笑いの中で科学技術の進歩を痛烈に風刺したが、現代の科学の進歩には風刺では済まない、背筋の寒くなるものもある。環境力の視点から科学の進歩を如何に捉えるか、これからの課題になる。

12回を終えて、この「賞」に関わった事務局の一員の感想を述べさせていただいた。現今のコロナ事変の一刻も早い終結を願い、次回第13回の成果を待ちたい。

	2008 1回	2009 2回	2010 3回	2011 4回		2016 9回	2017 10回	2018 11回	2019 12回	項目 平均
1.情報を公開し、公正な競争に率先して取り組む勇氣	4.14	5.00	4.40	5.00		4.38	4.14	4.17	5.00	4.51
2.100年先を見通した中期的な企業価値を設定し、価値を浸透させる情熱と達成する戦略性	4.14	4.50	4.40	4.80		4.62	3.86	4.33	4.25	4.40
3.国内外の時代の潮流を洞察し、先取りする力	4.14	4.67	4.40	4.80		4.13	3.86	4.83	4.50	4.43
4.他社とも協働して、社会に対する責任を果たそうとする意志	4.57	4.83	4.40	4.80		4.50	3.86	4.50	4.25	4.55
5.地域社会との交流を大切にし、その伝統や文化を尊重する意思	4.43	4.67	3.60	4.80		4.00	4.14	4.83	4.50	4.36
6.経済と環境を一体化しようとする意志	4.43	4.50	4.20	4.60	(中略)	4.25	4.43	4.37	5.00	4.47
7.働くことの価値を認め、自社で働く全ての人々の働く意欲を高める力	4.43	4.83	4.60	4.80		4.25	4.57	4.17	4.75	4.55
8.事業を大きくしすぎない勇氣	4.00	5.00	3.80	4.60		4.00	4.43	4.67	4.25	4.29
9.科学を理解し、経営に活かす力	4.00	4.67	4.00	4.40		4.13	3.86	4.00	4.50	4.10
10.技術動向を常に把握し、経営の発展に繋げる力	3.86	4.67	4.60	4.40		4.25	4.29	4.50	4.75	4.39
11.人知の及ばない大いなるものへの畏敬の念	4.71	5.00	3.80	4.20		4.00	4.14	4.50	4.25	4.32
12.NPOを含む全てのステークホルダーとコミュニケーションをとる力	4.57	4.83	4.20	4.80		4.38	4.29	3.83	4.5	4.41
<b>年平均</b>	<b>4.29</b>	<b>4.76</b>	<b>4.20</b>	<b>4.67</b>		<b>4.24</b>	<b>4.16</b>	<b>4.42</b>	<b>4.54</b>	

自己評価点の年次別・項目別平均点一覧